

第5学年「創造活動」学習活動案

授業者 神谷 潤・黒田英津子・築地晶子

2月20日（金） 4階A・B室、家庭科室 10:00～10:40

1 単元名 あそぶの時間

2 単元について

あそぶ学年の子どもたちは、5年部会のページにも示したとおり、自分たちの関心にもとづいて活動こと（学年のある人は「極める」という言葉で表現していた）が好きで、創造活動の時間をいつも楽しみにしている。2学期の終盤に、今後の創造活動をどうするか話し合いをしたところ、最重要であるとされたことが、仲良しグループを作るのではなく「自分のしたいことをプロジェクトとして立ち上げること」であった。プロジェクトを立ち上げた後も、それぞれが思い思いに活動を進め、楽しむ様子が見られている。

一方で、創造活動は休み時間ではなく「学習である」という理由から、これまでもあそぶ学年に限らず子どもの活動や探究の「質」が内外から問われてきた。子どもたちが自身のプロジェクトで探究していく営みには「質的なよさ」が存在し、より自分たちが迫りたいものに近づいていくためには、適切なアプローチが存在するかのようである。ただし、そうした方法論に回収されることなく、子どもたちは自分たちだけの独りよがりな探究にならないように、他者からアドバイスをもらうことに意味を感じており、自分たちで活動時間を確保しつつどのようにアドバイスや批評の時間を持つことができるかを検討している。私たち教師は、その「探究の質」なるものと子どものエージェンシーの間に立ち、時に背中を押したり支えたり、場合によっては中断を促したりしながら、子どもたちの「いま・ここ」に寄り添っていきたいと考えている。

2月下旬頃になると、ある程度活動が進み、自分たちが取り組んできたことが一定の変化を見ることができると考えられる。「6年生まで続けたい」と考える人もいるが、残り1ヶ月で学年末を迎えるタイミングで現在のプロジェクトを学年末までどのように進めていったらいいか、何に向かって取り組んだらいいかを考えるタイミングとしては良い頃合いではないかと考える。学期末に控える「あそぶデー」を意識することも大切であるが、あまりそのことを強調し過ぎずに自分たちの活動を見つめ直す機会¹を設け、自分たちがしたいことや目指したいことにどう迫るのか、他者とともに未来に向かう時間を大切にしたい。ただし、プロジェクトごとに活動の進捗は異なる。ともにある教師として、振り返りの必要性を慎重に吟味し、現在進行形の活動に対して、即興的に何をするのかしないのかを検討してかかわるようにしていきたい。

3 学習活動計画（30時間目／全40時間）

1	40
自分たちの関心に基づいてプロジェクトチームを立ち上げて活動に取り組む。	
学年・学級単位で創造活動全体の在り方について対話し、	中間報告をする
中間報告やあそぶデーの在り方について検討する。	活動する
	あそぶデーを開催し、今後活かす

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

今、自分たちが何をしたらプロジェクトの活動を前進させられるか考え、見通しをもって活動する。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
・本日の取り組みについて共有し、それぞれの活動に取り組む。 ・自分たちのプロジェクトの取り組みを報告し、他者からアドバイスを受ける。 ※上記に順序性はなく、子どもたちの活動の進捗状況や実態に応じて適宜判断して取り組むようにする。	・プロジェクトごとにホームとして集まる場所を設定しており、本時はそのうちの3つを公開する。プロジェクトは担当の特性に合わせて所属を決めた部分とあえて異質な内容に取り組んでいる部分を併せ持つように編成した。共通点や異なりを生かして互いに助言し合えるような関係をつくっていく。 ・普段から互いの活動に気を配り、活動内容を把握できるようにしておく。

¹ 5年部会資料に示したが、現時点で中間報告をどのように設けるかは子どもたちと検討している最中である。活動と並行してどのように他者との共有や検討をする機会を設けるかは子どもたちが協議を進めているところである。